



「ひと people」  
霧はマルチ  
ドライミスト  
と呼ばれ、人  
に当たっても  
ほとんどぬれ

## 環境に優しい建築の研究を



愛知万博で冷房装置が採用  
関口 正男さん(51)  
総社町植野

九月二十五日まで、愛知県で開催されている「愛・地球博」長久手会場の日本館前庭などに設置された冷房装置に研究技術が採用された。前橋工科大建築学科の助教授で、環境工学研究室を担当している。

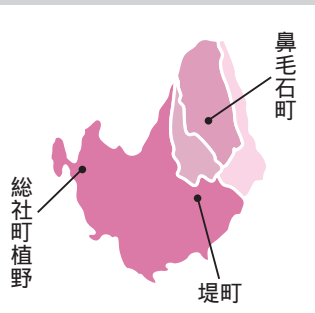
「前庭に竹の植栽が五力所あり、その周りに設けた木製ベンチが休憩スペースになっていきます。いすに座り休んでいる人の上からノズルで霧を出して、空気が冷える仕組みが万博委員会に採用されました。日陰の少ない場所なので、暑い日には涼を取りながら、一休みする人でベンチがいつぱいださそうです」

霧はマルチドライミストと呼ばれ、人に当たってもほとんどぬれないが、ノズルから大きな音が出るので利用が難しかった。「ノズルの防音ケースと霧の噴霧方向制御装置を開発し、現在、国際特許も出願中です。野球場やサッカースタジアムなど、大規模な施設にも活用できますが、防音効果を高め静かな所でも使えるようにしたいですね」

人の聴覚は物理的な数値とは違うことに興味を持ち、大学では建築音響学を専攻した。昭和五十四年四月、当時の工業短大に助手として採用され、講師を経て助教授に。現在に至る。「研究対象が音響から環境へと変わってきました。今回の開発装置も水を使って環境の負荷の少ない点が評価されたようです。これからも環境に配慮し、建築物を利用する人の快適性を高めるための研究を続けていきます」と、抱負を語った。

# ふれあい広場

情報をお寄せください。市役所市政発信課 890-6642へ。



## 球技大会で親ほく図る

桂萱地区

堤町では七月三日、桂萱東小で球技大会を行いました。この大会と納涼祭、運動会を一年交代で開催。小学生からお年寄りまで百五十人が参加し、グラウンドゴルフで汗を流しました。組別対抗で優勝を争い、参加者は楽しみながらも真剣にプレー。選手だけでなくその家族も一緒にコースを回り、ナイスシ



ョットには歓声や大きな拍手が。同自治会長の松村三郎さんは「みんなで楽しめるイベントを通じて住民同士の親ほくを図り、町をさらに活性化させたいですね」と話していました。

## チヨウを通じ環境の保護を

宮城地区



六月二十六日、鼻毛石町の宮城総合運動場・いきものふれあいの里で第四回みやぎオオムラサキまつりが、六月の環境月間に合わせて開催されました。歌や紙芝居、マジックショーなど楽しいイベントの後、ここで羽化した三匹のオオムラサキを宮城小、月田小の児童と高木市長が自然に返しました。

主催の群馬国蝶オオムラサキの会は、オオムラサキを通じて自然環境の保護や啓発活動に取り組んでいます。美しい国蝶の姿から自然環境保護の大切さが伝わってきました。

